瑞穂区の遺跡・遺構を調べる

瑞穂図書館
2022年3月

瑞穂区内には、旧石器時代・縄文時代から多くの遺跡が残されています。どんな遺跡があるのか調べてみましょう。

1.瑞穂区にはどんな遺跡があるの？・・・区内の遺跡・遺構を調べる

瑞穂区内にある遺跡や遺構を調べてみましょう。

(1)遺跡分布地図を見る

『名古屋市遺跡分布図』(瑞穂区)

各区ごとに、名古屋市が遺跡分布図を発行しています。これには、既に滅失した遺跡も含めて、区内の遺跡一覧が掲載されています。また、遺跡の場所を地図上で確認することができます。

(2)区史・区誌・市史を見る

『瑞穂区―その生い立ちから(区政二十周年記念)』 1964

「第一部三　瑞穂のあけぼの、四　中世の瑞穂区」に区内の遺跡についての記述があります。

『瑞穂区の歴史』 1985

「2　ふるさとのあさぼらけ」、「3遺跡のなかのくらしを探る」に主要遺跡の解説があり、「瑞穂区遺跡一覧表(P39～44)」が掲載されています。

『瑞穂区誌ー区制施行50周年記念』 1994

「第2章　先史時代の瑞穂」の中に、縄文から古墳時代にかけての瑞穂区の遺跡の説明があります。また、「第5章中世の瑞穂　第3節土豪と城跡」に、中世から戦国にかけて、瑞穂区内に存在した城砦等について解説と区内の城跡分布図(小図)(P115)が掲載されています。

『みずほ検定　歴史・史跡・地名・産業文化編　公式テキスト』 2012

区内の史跡の解説があります。(出典は「瑞穂区誌」等)

『新修名古屋市史』 第一巻

旧石器時代～平安時代までの名古屋市内の遺跡についての概説があります。(記述が広範なため、目次等を参照)

◎区内の主な遺跡・遺構(年代別)		
縄文時代	欠上貝塚(消滅)	
	大曲輪遺跡(瑞穂運動場の工事により4割程度が破壊)	
	下内田貝塚	
	瑞穂遺跡　(縄文時代の遺構を第2次・第4次調査で確認)	
	その他　:瑞穂通4丁目遺跡、東畑貝塚、田光遺跡	
縄文～弥生時代	瑞穂遺跡	
弥生時代	蛇塚遺跡、大喜遺跡、惣作町遺跡	
古墳時代	5～6世紀	八高古墳(1号墳・2号墳)：前方後円墳、円墳
		高田古墳(1～5号墳)：5号墳以外消滅、円墳?
	7世紀	津賀田古墳:円墳　、おどり山古墳:矩形
		瑞穂古墳群(瑞穂1～4号墳) ：1号墳・2号墳以外消滅
		琵琶ケ峰古墳　※古墳の年代は推測
	消滅古墳	薬師寺古墳、おつくり山古墳、下山古墳、 琵琶ヶ峯古墳、井守塚古墳
中世	城郭遺構	高田城、大喜田光城、大喜東北城、田子城(五郎丸屋敷)、中根北城、中根中城、中根南城、
	その他	中根古銭出土地
近世	高田経塚	

2.それぞれの遺跡・遺構について調べる

(1)遺跡についての解説を見る

各遺跡についての解説資料を見ると、発見の経緯や出遺物等について知ることができます。(掲載内容詳細はリスト参照)

①『名古屋の遺跡百話』1973 吉田富夫　名古屋市教育委員会
②『熱田・瑞穂区の考古遺跡』1981 三渡俊一郎 名古屋市教育委員会
③『考古学の風景−名古屋における発見と調査のあゆみ』 1988 名古屋市博物館
④『特別展 名古屋の縄文時代 資料集』 1993
⑤『愛知の縄文遺跡(名古屋市博物館資料図版目録5)』 2004
⑥『愛知県史』 資料編1(旧石器・縄文)、⑦資料編2(弥生)
⑧資料編3(古墳) 2002−
⑨『新修名古屋市史』 資料編(考古 1)、⑩資料編(考古 2) 2008−

(2)発掘調査報告書を見る

①瑞穂遺跡

第 1 次〜第 10 次まで発掘報告書あり(「瑞穂区資料リスト」を参照)
最新のもの 『瑞穂遺跡第 10 次発掘調査報告書』 2014.3

②大曲輪遺跡

『瑞穂陸上競技場内大曲輪遺跡発掘調査概要報告書』1981
『埋蔵文化財調査報告書 80 大曲輪遺跡』 2018.3
『大曲輪遺跡試掘調査概要報告書』 2020.3
『埋蔵文化財調査報告書 91 大曲輪遺跡(試掘調査)』2021.3

③その他遺跡　仁所遺跡、津賀田古墳等の発掘調査報告書あり
(「瑞穂区資料リスト」を参照)

(3)初期(戦前〜昭和 30 年代頃まで)の発掘調査等報告

『愛知県史蹟名勝天然記念物調査報告書』1〜4 巻(復刻)

戦前からの発掘調査報告資料です。耕地整理事業等により消滅した遺跡の報告書が含まれています。

2 巻:井戸田おつくり山古墳、村上おどり山古墳、
明治天皇覧稷地(【八丁畷】)、東牧弥生式遺跡
4巻:中根古銭出土地、大曲輪貝塚及下内田貝塚

(4)その他参考文献一覧(入手困難なものあり(※)。 ★は名古屋市所蔵)

「流水紋を有する弥生式土器」 小林行雄
(『考古学』第 4 巻第 10 号 1933)
「名古屋発見銅鏃の分析」 森本六爾
(『考古学』第5巻第7号 1934)
「尾張国瑞穂発見の動物形土器」 吉田富夫
(『考古学』第8巻第 10 号 1937)
「魚形土製品」 神林淳雄
(『考古学雑誌』第 31 巻 8 号 1941)
「尾張国欠上貝塚及田光梅林遺蹟について」 坪井邦夫
(『古代文化』第 12 巻第 11 号 1941)
「銅鐸に関する若干の新知見」 梅原末治
(『考古学雑誌』第 21 巻第 2 号 1941)
「愛知県名古屋市瑞穂遺跡」 中山英司(『日本考古学年報』4 1955)
「名古屋市瑞穂区高田古墳(旧五中山古墳)発掘経過報告」
(名古屋大学考古学研究室 1955) ※
「名古屋市瑞穂区弥富遺跡」三浦俊一郎ほか
(『野帳』3 号 1956 爪郷遺跡調査会) ※
『東海の先史遺跡 総括編』(東海叢書13) 紅村弘 1963 名古屋鉄道
瑞穂包含地(【瑞穂遺跡】)、欠上貝塚址、田光遺跡址、大曲輪貝塚、
下内田貝塚 ★
『貝塚を学ぶ』 酒詰仲男 学生社 1967 ★
「尾張国愛知郡中根三城の研究」織田博
(『城』74 東海古城研究会 1974) ★
「岡崎市南ヶ原古墳・名古屋市井守塚古墳発掘調査報告書」松原隆治
(『小林知生教授退職記念考古学論分集』1978) ★

※中根銅鐸

明治3年(1870年)、道路工事中に丹羽利吉が、中根村字仁所旧番戸81戸の畑の中から銅鐸を他4点と共に発見。
総代小川幸七が村役場に届出、間もなく役場から地元に払い下げられた。

明治7年(1874年)、大谷派本願寺東別院で開かれた博覧会に出品され、博覧会物品録第2号に宝鐸として図入りで展示された。

博覧会後、京都東本願寺別院に寄進されたが、仏教に関わりの無いものとして、兵庫の辰馬悦蔵に払い下げられ、現在、兵庫県西宮市にある辰馬考古資料館が所蔵している。昭和59年(1984年)、国の重要文化財に指定された。

(本願寺の博覧会に出展された後、数十年間所在不明だったが、研究者等による情報交換と調査により、兵庫県に保管されている銅鐸が中根で出土したものであることが判った。現在では譲渡経過も判明している)

この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています

(1)遺跡についての解説を見る　掲載内容詳細

資料 / 遺跡名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
欠上貝塚	P16	○	○	P46	P35-61				P106-107 口絵写真	
大曲輪遺跡	P11	P75-80		P43-48 P94-103 (出土品図)		P146-149			P98-105 口絵写真	
下内田貝塚		P72-74				P144-145			P92-97	
瑞穂遺跡		P54-65	○				P244-251		P86-91 P306-325 口絵写真	P198-205
大喜遺跡		○		P46				P396	P326-329 P770-772	P206-209
仁所遺跡		○					P264		P330-331 P926-927	P210
中根遺跡(中根銅鐸)	P40	○	○						P332-333 P878-884	
大喜梅林遺跡		○	○						P334-346	
田光遺跡	P34	○		P47						
八高古墳	P46	○						P391-392	P756-758	
高田古墳	P34	○						P393-395	P759-763	
村上おどり山古墳	P57	○							P764-765	
琵琶ヶ峯古墳		○							P766-767	
下山古墳		○							P768	
瑞穂古墳群		○		P46					P769	
津賀田古墳		○						P397-399	P773-775	
井守塚古墳		○							P776-777	
おつくり山古墳	P22	○	○					P400-403	P778-781	
中根三城跡(北・中・南)		○								P372・南
高田城		○								P861-862
大喜田光城										
大喜東北城		○								
田子城										
中根古銭出土地		○								P379
高田経塚				P48						P800